

# 慶應言語学コロキウム

## 統語を特徴づける構造構築の単位に見える 理論の切り替え-フェーズの可否をめぐる

講師：宗像 孝 [企画責任者](横浜国立大学)、山口 洋輝 (学習院大学)

石井 透 (明治大学)、後藤 亘 (東洋大学)、田中 祐太 (中部大学)

コメンテーター：内堀 朝子 (東京大学)、北原 久嗣 (慶應義塾大学)

日時：2026 年 10 月 10 日(土)~11 日(日) 13:00-18:30

会場：慶應義塾大学三田キャンパス北館大会議室 ※対面開催のみ

使用言語：日本語

参加申込：研究所ホームページもしくは右のQRコードよりお申込み下さい

- \* 準備の都合により、事前申込をお願いいたします。
- \* 事前にお申込みいただかない方の当日参加も可能ですが、会場にて参加者カードへの記入が必要となります。
- \* 今回のセミナーは生成文法研究の専門的知識が前提となります。



フェーズは、統語構造構築の基本単位として重要な役割を果たしてきた。しかしながら、Citko (2014) が指摘するようにフェーズ性を特徴づける決定要因はフェーズ不可侵条件 (Phase Impenetrability Condition) に由来する「局所性」、「循環性」、「収束性」、「命題性」、「意味上・音韻上の解釈単位」といった幅広いものになる。そのため、研究者によってフェーズの規模や機能について様々な提案があり、一定していない。又、規範的なフェーズとされる  $vP$  と  $CP$  についても、 $vP$  は作用域などを基にする循環性の議論が乏しく、言語処理においても積極的な証拠がない (Keine 2020)。最後に、Chomsky (2024) において、外項が  $vP$  フェーズから外されており、命題性に合致しない上に、Box の導入により循環性の役割が霧散し、フェーズの役割が極めて制限されている。

以上から、フェーズ性に疑問を呈さざる得ない状況にあるが、フェーズ性に揺らぎが生じているからこそ、フェーズ性を特徴づける決定要因を再検討し、根本から見つめ直してフェーズの概念を立て直していくのに最適な時とも言える。本コロキウムは、各講師が統語構造の基本単位として用いられるフェーズを改めて吟味し、関係する言語事象を俯瞰することで、フェーズ性に連なる決定要因の概念を昇華させて、構造構築メカニズムを探ることを目的とする。

宗像はフェーズを概念思考体系 (Conceptual-Intentional System) に出力を提示するものとする考えを基に、構造構築も概念思考体系が意味解釈を与える命題領域・節領域を切り口にフェーズ性を見直し、フェーズをつなげるものとしてコピー形成と格認可を特徴づける。山口は日本語、英語、トルコ語といった諸言語の統語的使役構文における受動化や照応詞の解釈などの現象を手がかりに、動詞句レベルでのフェーズに関連する統語構造や外項の構造的な位置を考察し、フェーズの成立条件やフェーズとなり得る範疇について議論する。後藤・石井は、受動・非対格構文の  $vP$  フェーズ性を巡る理論的パドックスを考察する。非適正移動は  $vP$  を非フェーズとするが、再構築効果などはフェーズ性を示唆する。Chomsky (2024) の Box System を拡張し、未付値素性を持つ内部項が  $vP$  エッジでの Box 化を免れるという「素性付値に基づく Box System」を提案する。これにより上記のパドックスを解消し、統語演算における Box 化の条件に新たな視座を提供する。田中は、操作の適用順には未指定の部分が存在し (Obata et al. 2015)、その適用順の差異によってフェーズ性が変動しようと提案する。この提案に基づいて、英語の主語移動を中心とした諸現象を説明する。さらに、その分析を通時変化にも拡張できることを示す。

第一日目 [13時 - 18時 30分]

- ・コロキウム趣旨説明・概説 (宗像 孝)
- ・発表 1：フェーズの連なり：命題領域と節領域のつながりと境目に着目して (宗像孝)
- ・発表 2：諸言語の統語的使役構文におけるフェーズについて (山口洋輝)

第二日目 [13時 - 18時 30分]

- ・発表 1：受動・非対格  $vP$  のフェーズ性パドックスについて：素性付値に基づくボックス・システムによるアプローチ (石井透・後藤亘)
- ・発表 2：操作順序によるフェーズの可変性と移動可能性 (田中祐太)

共催：科学研究費助成 基盤研究(C) 25K04101 『併合と最小探索に基づく日英語比較研究：統辞構造はどのように生成され解釈されるのか』

[お問い合わせ先]

〒108-8345 港区三田2-15-45 慶應義塾大学言語文化研究所  
電話：03-5427-1595 (事務室直通) メール：genbu@icl.keio.ac.jp  
<http://www.icl.keio.ac.jp>